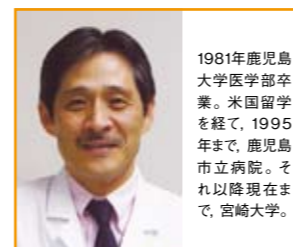


# 連載 声なき声を聴くために 胎児心拍数モニタリング判読塾

宮崎大学医学部 産婦人科 教授 **鯨島 浩**



1981年鹿児島大学医学部卒業。米国留学を経て、1995年まで、鹿児島市立病院。それ以降現在まで、宮崎大学。

## 第3回

# 胎児心拍数モニタリング時の 体位

## 仰臥位低血圧症候群について

胎児心拍数モニタリングでは母体の体位が重要です。体位が悪い場合には、胎児が元気な状況であっても「胎児機能不全」の所見を示すおそれがあります。

図1に母体の腹部横断像を示します。脊椎骨の左側に大動脈が、右側に下大静脈が走っています。妊娠後半期になると、腫大した子宮によって腹側から(上方向から)圧力を受けます。血管壁の薄い下大静脈のほうがより影響を受けやすく、結果的に圧排されます。

下大静脈が圧排され、静脈環流が減少した結果、頰脈となり、さらに心拍出量の減少に至ると、**仰臥位低血圧症候群**が発症します。低血圧になると、子宮への血流量が減少し、胎児胎盤系への酸素供給量が減少し、その結果「胎児機能不全」の所見を示すようになります。

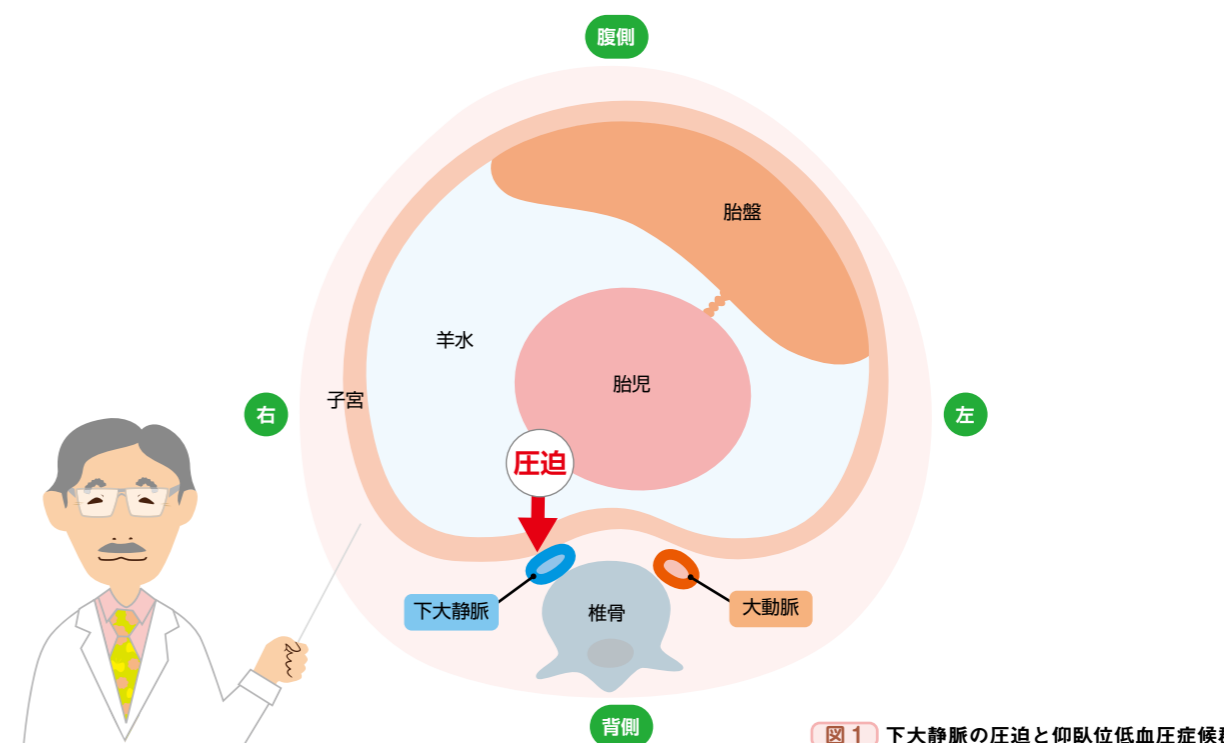
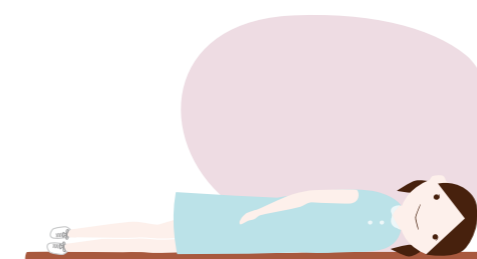


図1 下大静脈の圧迫と仰臥位低血圧症候群

## 仰臥位低血圧症候群の予防のためには

### 1 左側臥位



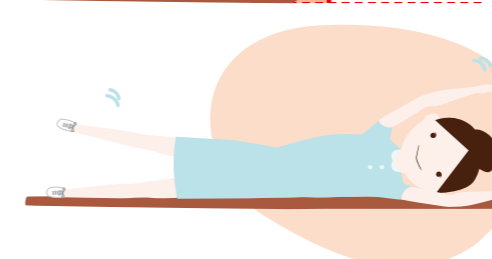
仰臥位低血圧症候群の予防は、**下大静脈の圧排を予防**することです。そのためには母体を**左側臥位**にすることが推奨されています。左を下にして側臥位になると、子宮からの圧力は下大静脈にはほとんど影響をおよぼしません。あるいは、子宮を持ち上げたり、子宮を左方向に移動させたりして、下大静脈の圧排を解除・軽減させることが重要です。

### 2 セミファーラー位



背中を30度以上持ち上げた**セミファーラー位**も有効です。子宮の重力は骨盤へと向い、下大静脈の圧排が軽減します。

### 3 体位変換



仰臥位では、前述したように静脈環流の減少によって頰脈となったり、また、軽度の血圧低下によって気分不良を訴えたりします。このような臨床所見をみたら、仰臥位低血圧症候群を念頭に、早急に**体位変換**を行うことが大切です。